

平成 29 年度 第 2 回 新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時： 平成 30 年 3 月 29 日（木曜日） 午後 3 時～5 時 10 分

会 場： 新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員： 8 名

阿部紀夫、伊藤裕美子、大月優子、小島勝治、里村洋子、
島 吾郎、杉本耕一、寺山知子（敬称略）

欠席委員： 2 名

生田雅之、小黒 忠、（敬称略）

傍 聴 者： なし

事 務 局： （博物館）頓所洋一館長、神田直子学芸員（主幹）、塩原賢信主査
曾部珠世嘱託

（地域課）佐々木勇課長（副区長）

資 料： 当日配布（資料 1、資料 2、「新潟市財産経営推進計画（葛塚地域実行計画）」）

会議概要

1 開会

司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩原賢信 主査

ただいまから平成 29 年度第 2 回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。

本日は、生田委員と小黒委員の 2 名から欠席の連絡をいただいておりますが、委員 8 名
が出席されており、会議は成立しています。傍聴者はありません。

恐れ入りますが、議事確認のため、本日の会議を録音させていただきます。よろしくお
願いいたします。

これより次第に従って、会議を進めていきたいと思っております。

2 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・杉本耕一（新潟市北区郷土博物館協議会会長）

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。今回は、平成
29 年度第 2 回目の協議会でございます。みなさんから忌憚のないご意見をいただき、少し
でもこの博物館のよりよい運営にご協力できればと考えています。よろしく願いいたし
ます。

3 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・佐々木 勇 北区地域課長（副区長）

北区地域課長を兼務しております副区長の佐々木です。皆さまにおかれましては、日頃
から当館の適切な運営にご支援をいただき、御礼申し上げます。

4 月から、市の組織改正により、北区では地域課と総務課が一つになって、「地域総務課」
となります。博物館につきましては、「地域総務課」が所管いたしますので、よろしくお願

いたします。私も、地域総務課長として、引き続き、博物館の所管課としての仕事を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

ご存知かと思いますが、新聞等で、新潟市の予算が大幅に削減されることが大きく報道されております。これからさまざまな事業の見直しが図られることとなりますが、この博物館につきましては、少ないながらも前年度並みの予算が確保できましたことをご報告させていただきます。

さて、博物館の人員体制についてのことですが、頓所館長が3月末をもちまして退職することになりました。後任には、前北区副区長で、現在、豊栄図書館の木村館長が4月から就任いたします。よろしくお願いいたします。

地域の宝を収蔵、展示する博物館の運営につきまして、みなさまから引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

4 議事

(杉本会長) では早速、議事に入ります。

まずは会議次第の議事(1)平成29年度後期の新潟市北区郷土博物館事業報告について、博物館から説明をお願いします。

(1) 平成29年度後期の新潟市北区郷土博物館事業報告について

(頓所館長) 「平成29年度後期の事業報告」を資料1に基づいて説明する。

(杉本会長) ただいま平成29年度後期の事業予定を説明していただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

【質疑応答】

(伊藤委員) 「博物館まつり」(2.講座・教室、レファレンスの(2))で、新潟医療福祉大学の学生ボランティアが参加して下さっていますが、今回初めてですか？

(頓所館長) 昨年度から参加していただいています。新潟医療福祉大学では、北区と提携し、学生が地域のことを学び、地域の人とふれあう機会をつくるために、地域の事業とかかわることを目指しています。福祉関係の仕事に就く学生が多いので、ボランティア活動を通して、地域の方々とのコミュニケーションをはかることが有効だと考えているのだと思います。博物館の方から依頼していただきました。

(寺山副会長) 「ふるさと学習」(2.講座・教室、レファレンスの(5))において、小学生の社会科の授業としての見学への対応のほかに、今年度は、地域教育コーディネーターへの常設展示解説や、小学校の校長先生への解説といった新しい試みがあり、とても素晴らしい試みだと思います。

(頓所館長) 学校関係者への常設展示解説会は、昨年度から始めております。初回

は、小中学校職員と地域教育コーディネーターを対象とした事業でしたが、今回は、地域教育コーディネーターへの解説と、小学校の校長先生方への解説という二つの機会をいただきました。

聞くところによれば、校長先生方の在任年数は短く、毎年、北区の学校の約半数で、校長先生の交替があるということでしたので、北区教育支援センターの指導主事の先生に相談し、協力のもとで行ったものです。小学校長会の研修がお向かいの葛塚東小学校で行われるタイミングで、研修の一環として、当館を見学していただきました。大変関心をもって見ていただきました。

昨年度のふるさと学習の利用は3校でしたが、おかげさまで今年度は6校にふえました。学校関係者から博物館に足を運んでいただき、展示をご覧いただき、市民ガイドさんたちの協力をいただきながら、直接コミュニケーションがとれたことが、効果として現れたのではないかと思います。

(神田) 補足させていただきますが、小学校3年生の社会科の「ふるさと学習」の授業のための利用は、新しいことではなく、以前は、分館の「横井の丘ふるさと資料館」で行われてきたものです。ふるさと資料館の耐震の問題が生じたこと、また、本館の常設展示が「阿賀北の大地と人々の暮らし」のテーマにリニューアルされたことから平成27年度から対応を始めました。さらに、平成28年度から、小学校のふるさと学習の時期にあわせて「昭和の暮らし」という企画展を始めたのです。これは、本館の常設展示と「昭和の暮らし」の企画展と二つによって、「ふるさと学習」の場としての博物館の周知を積極的にはかろうという目的を持つてのことです。

(寺山委員) 今年度の入館者が、8217人ということですが、これは昨年度と比べてどうだったのでしょうか。どう変わったのか、その理由などもあわせて知りたいです。

(神田) 平成29年度の本館と横井のふるさと資料館をあわせた入館者数は、3月20日現在で、8,320人です。昨年度(平成28年度)は、9,081人でした。修繕工事のため秋に一月休館しても、今年度より700人ほど多いのは、昨年度に「北区の勤皇の志士遠藤七郎展」(972人)と、「上田桑鳩展」(1,117人)という二つの大きな企画展を開催したためだと思います。

一昨年度(平成27年度)は、9,065人。この年度は、新常設展示の暫定オープンと、弦巻松蔭の没後20年を記念した二つの企画展(計1,846人)が、今年度より多い要因かと思えます。その前の平成26年度は、9,027人でした。

ただし、今年度は、「特色ある区づくり事業」の「郷土芸能支援事業」として、館外公演を3回行い、「キテ・ミテ・キタク」の参加者、2校の小学校文化祭への参加者をご覧になって下さったこと、市文化財センターの出前事業への協力などといった「館外事業」により、1,409人が加わったことで、総計として、9,729人としています。

(小島委員) 入館状況については、いつも皆さんの関心のあるところですので、開

館以来の入館者数を折れ線グラフにさせていただけるとわかりやすいかと思います。当該年度の報告ではわかりづらいし、問題点が見えてきません。年度末には、入館者数の推移を見ながら、課題を検討していけばよいのではないかと思うのです。それによって、入館者数を増やすにはどうしたらよいか、お互いに知恵を出し合うことができるのではないのでしょうか。

(神田) 折れ線グラフを作成するのは難しくはありません。しかし、総数のグラフ化をもって、入館者数の比較や分析はそう単純ではなく、その年の企画展の分野や内容、質であったり、工事で休館したりという外的な事情であったりなど、さまざまな要因で変動しています。また、今年度のように、館外事業で1,400人がカウントされていますが、館外事業を行わなければ、その加算がないわけです。機械的に数値を並べて作成した資料だけでは測れない事情も考慮していただければと思います。

(小島委員) さまざまな事情があれば、そこに説明を加えていただければよいことです。数字は大事ですよ。

(島委員) この博物館は、限られた予算のなかで、さまざまな企画展、それから数多くの事業を展開していて、本当に素晴らしいと思います。さて、今ほどの「入館者数の数値」のことにについて意見をのべさせていただきます。事業効果をみる上で定量的な物差し、つまりは数字で測るという方法があります。それが、この場合の入館者数ということですが、ただ、その数字だけを言ってしまうと、なかなか厳しいものがあります。数字として表れないものをすくいあげることは大事なことだと思います。

例えば、ある企画展を見た人が、心から素晴らしいと感じたとか、あるいはどのような感想を持ったのか。また、事業に参加した人がどれだけ満足してくれたのか。そういう観覧者、見学者、参加者の生の声を聞きとることも必要だと思います。満足度や内容に対する評価といったものが、もう一つの指標になるのではないかと思います。

参加者の声を聞く方法として、「アンケート」がありますが、これは手間ばかりかかって、その割には効果なしと思っています。お客様に直接話をうかがうのが一番よい方法だと思います。

(頓所館長) 事業効果ということについて、お答えします。新潟市の取り組みとして、組織の目標、施設の目標を設定しています。その一つに入館者数があります。今年度の目標は、9,500人のところ、先に説明させていただきました通り、館外事業を含めて、9,729人となり、目標を達成しています。二つ目に、刊行物の販売について、15万円を目標としましたが、現時点では12万円ほどで、3月末の数値として残念ながら目標数値には到達できないかと思っています。三つ目は、市民ガイドのスキルアップ研修ですが、こちらは、ボランティア交流会などを行って、目標達成しました。

(曾部) 来館者の直接の声を聞くということについて島委員からお話がありま

したが、「ふるさと学習」で「昭和の暮らし展」を見学した学校からは、利用の後に、お礼と感想を書いた手紙が届きます。それらは、可能な限り展示室内に掲示します。こうした生の声は、職員や解説ボランティアの市民ガイドさんの励みにもなっています。ふるさと学習は冬期に行われるので、それにあわせて行う「昭和の暮らし展」は、必然的に寒い季節での開催となります。この冬は特に雪も多く、今回の一般の方の来館は多くなかったのですが、来年度は、開催時期をずらして、1月からゴールデンウィークまで行う予定にしています。

(小島委員) ふるさと学習における博物館利用を促すことはとても大事だと思います。そのために地域教育コーディネーターや校長先生方に説明することは大変によいことと思いますので、ぜひ毎年やっていただきたいと思います。

(伊藤委員) 市民ガイドとして小学生の「ふるさと学習」の対応をさせていただきました。その後で、小学生からお礼の気持ちや感想を書いた手紙をいただき、とても感激しました。数字は大事なのですが、こうした数字には表れなくても、しっかりと感触を実感できることがあります。こうしたことも大切なことと思います。

「昭和の暮らし展」は、小学校の「ふるさと学習」に対応した企画で、大変よかったですと思います。こうした企画が、ほかの区でも広がって、ふるさと学習を地域の博物館・資料館で出来るようになればよいなあと思いました。

(島 委員) 小学校4年生から使う「副読本」を社会科の先生方が作っているのだと思いますが、そういった現場の先生方が、博物館と連携して、副読本作りやふるさと学習に対して取り組むとことができればいいのではないかと思います。

(頓所館長) 『わたしたちの政令市新潟』という副読本がありますが、それと連動した活動は今のところありません。現場の先生方とのコミュニケーションが必要だと思っています。

(2) 平成30年度の新潟市北区郷土博物館事業計画について

(神田) 「平成30年度後期の事業計画」を資料2に基づいて説明する。

(杉本会長) ただいま平成30年度の事業計画を説明していただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

【質疑応答】

(里村委員) 少ない予算と少ない人員で、これだけの事業を計画されているのだなあと思ってしまうとともに、あまり無理しないでほしいとも思っています。

先日始まった美術展が、年度をまたいで6月17日まで開催されるとのことですが、美術の企画展をやるというのは、よその博物館では殆どないことで、この博物館の一つの大きな特徴だと思っています。美術展は楽しみの一つです。もう一つ楽しい企画が、「昭和の暮らし展」です。来年度は、第3回目とのこと、これまでの二つのテーマとは違った新しい切り口で行われるようですが、もうテーマは決まっていますか。

(曾部) 2月に終わったばかりですので、次のことはまだ決めていません。

(寺山副会長) 刊行物の販売(4.講座・教室、レファレンスの(10))についてですが、博物館がどのような刊行物を作成していくらで販売しているのか、よくわからない人が多いと思いますので、区だよりで宣伝してはどうかと思います。

また、郷土芸能の記録のDVD化(1.郷土芸能伝承支援事業の(2))について、具体的に教えてください。

(頓所館長) 新潟市指定無形民俗文化財などの郷土芸能のVHSによる記録を、DVDにして、長期保存することと、またそれを郷土芸能の普及のために活用する目的で行っています。すでにDVD化の作業は終わっており、来年度からは編集のための仕事にとりかかることになります。指定文化財以外の郷土芸能のうち、まだ記録していないものもあります。11月25日に「郷土芸能発表会」を北区文化会館で行いますが、その時に公演全体を収録する予定です。

(阿部委員) 「ふるさと学習」というものが、中学校であるのかわかりませんが、中学校の社会科の事業として、ぜひとも、木崎村の小作争議を学んでもらいたいという希望を持っています。3-4年前になりますが、新発田市の中学校の社会科教師の研究会の場でお話をさせていただき、また、現地へも案内しました。新発田市はさておき、地元であるこの新潟市北区はどうなっているのかなあと考えた次第です。

昭和40年代、木崎中学校では木崎争議の授業が盛んに行われていましたが、熱心な先生が去られてからは、それがなくなってしまったので、寂しい思いをしているところです。

(杉本会長) 小学校のふるさと学習は定例化しているようですが、中学校についてはどうなのですか。中学校長会へのはたらきかけはどうですか。

(頓所館長) 中学校長会は、不定期だということもあり、現在は、情報提供にとどまっています。木崎争議の学習については、北区全体に働きかけるよりは、まずは、木崎を中心にはたらきかけた方がよいと思いますが。

(阿部委員) 木崎村小作争議について私が新発田市の対応をした経緯を話しますと、木崎中学校ではまったく対応できないとのこと、こちらに話がまわってきたという経緯があります。

(小島委員) 「ふるさと学習」は、現場の教員が中核になると思いますので、現場に実質的なことを伝えていくことが必要かと思います。

(島委員) 市小研の社会科の研修会を、こちらに誘致するということは、有効ではないでしょうか。

(杉本会長) そういう現場の動きを知り、捉えることが必要ですね。

(寺山副会長) 市小研は各「区」にあるのですか？

(小島委員) 市小研は、新潟市の小学校の教員の研究会です。新潟市全体の研究会です。

(曾部) 副読本には、各区のことも少しずつ書かかれていまして、北区に関しては、福島潟の干拓のことなどがあります。今年度は4年生の社会科の授業で、副読本にあわせて干拓の歴史を勉強する機会として、ここに見学に来た学校があります。学校で副読本とビデオ教材で勉強していただき、博物館へ見学に来ることで、より理解を深めていただくことができるかと思います。

(小島委員) 今回、常設拡大企画展を開催していますが、このような素晴らしい美術作品があるということがわかっただけでも意義のある企画です。このほかに、20数倍近くもの作品が収蔵庫に眠っているとのことでしたので、驚きました。展覧会の企画には手間暇がかかることかと思しますので、毎年というわけにはいかないのかもしれませんが、ぜひ、これからも、美術作品を公開する機会をつくっていただきたいと思います。

(3) その他

(杉本会長) みなさま、たくさんのご意見をありがとうございました。
定められた議事は終了しましたので、(3)その他について、博物館からお願いします。

(頓所館長) 資料としてお配りしている「新潟市財産経営推進計画」の「葛塚地域実行計画」をご覧ください。「葛塚地域公共施設のこれからを考えるワークショップ(対策案)」について、かねてからみなさまに説明させていただき、また、ご意見をうかがってききましたが、このワークショップに基づいて新潟市が作成した「実行計画」です。

当博物館につきましては、「更新を迎える概ね20年後に、ビュー福島潟エリアへ機能移転し、跡地を売却」という方針が出されました。報告をかねて、資料をお配りさせていただきました。このことにつきましては、今後、動きがありましたら、その都度、ご説明していくことになろうかと思えます。

(杉本会長) 質問がないようですので、これで議事を終了します。みなさま大変お疲れさまでございました。

5 閉会

司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩原賢信 主査

それではこれで、平成 29 年度第 2 回新潟市北区郷土博物館協議会を終了いたします。
みなさま、大変お疲れさまでございました。